

10 赤ちゃんの指がドアに触れていないのを確認してから開閉を行っていますか。

赤ちゃんの小さな指はちょっとしたすき間にも簡単に入ってしまう。赤ちゃんをおんぶしているときに、赤ちゃんがドアをいたずらしているのに気づかずドアを開めてしまったり、開け放しておいたドアが強風で急に閉まって赤ちゃんの手が挟まれてしまう事故があります。



ドアの開閉をするときは、赤ちゃんの手の位置を確認する。
ドアを開け放すときは、
風などで急に閉まらないように
ドアクローザー、ドアストッパーなどで固定する。

11 ベビーベッドの柵とマットレスの間にすき間がありますか。

ベビーベッドの柵とマットレスや敷布団の間に、赤ちゃんの頭が入るようなすき間があると、顔が挟まって動けなくなり、窒息する危険があります。すき間ができてしまう場合には使用をやめるか、タオルなどを挟み、すき間をなくして使用します。



ベビーベッドはベッドの柵とマットレスや敷布団の間にすき間がないか調べて使用する。

子どもを事故から守る! 子どもの事故予防サイト
PROJECT 子ども安全メールform消費者庁

身近に起きる
子どもの事故
を紹介!!

すぐ分かる!!
事故予防の
ポイント

消費者庁

<http://www.caa.go.jp/m/>

(携帯電話用)

<http://www.caa.go.jp/kodomo/>

(パソコン用)

子ども安全メール
の登録はこちらへ!

消費者庁
携帯電話用サイト



携帯で手軽に
事故予防に役立つ
情報を入手できます

長野県小児救急電話相談

#8000または0263-72-2000

(#8000がつかない時)

相談日時：毎日19時から23時まで

〈こんなとき…ご相談ください!〉

こどもが熱を出して元気がない
吐いたり下痢をしている…など

子どもに 安全を プレゼント

3～4か月児健診用



事故防止のポイント

子どもに 安全を プレゼント



著作 長野県長野保健福祉事務所長
田中 哲郎
発行 長野県健康福祉部 こども・家庭課

長野県

！子どもの周りに危険がいっぱい

周囲のちょっとした気ばりで事故の大部分は防げます。

1 ベビー用品は月齢や使用目的にあったものを選び、取り扱い説明書をよく読んでいますか。

赤ちゃんが使うものはすべて安全の規格や基準にあっているとは限りません。Sマーク・SGマーク・STマーク等安全マークがついているものでも、使い方や使用月齢が違っていたり、赤ちゃんの体に合っていないと事故は起ります。使い方の表示や注意書きは大切で、説明書をよく読み、構造や品質に問題はないかを確認して使用します。



取扱説明書や使用上の注意をよく読み、きちんと守って使用する。
子ども用品はデザインだけではなく、安全性にも目を配る。

2 ベビーベッドの柵はいつも上げていますか。

赤ちゃんの発達は早く、まだ動けないから大丈夫と思って、ベッドの柵を下けたままミルクを作りに行ったり、オムツを取りに行ったり、赤ちゃんからちょっと目を離れたすきに転落事故はおこっています。



ベビーベッドに寝かせるときは、必ず柵を上げておく。

3 テーブル、ソファなどの上に赤ちゃんを寝かせたまま目を離すことがありますか。

3か月ぐらいになると、赤ちゃんは手足をバタつかせ激しく動き、頭の方へずりあがったりします。5か月を過ぎると早い赤ちゃんは寝返りが打てるようになりますので、テーブル・ソファなどの高いところに赤ちゃんを寝かせるときは、目を離すことができません。



テーブル・ソファなどの高いところに寝かせない。
子どもは動くものだということを忘れずに。

4 赤ちゃんを抱きながら、熱い食べ物や飲み物を食べたり飲んだり、料理することがありますか。

3～5カ月にかけて赤ちゃんはこぶしをふるったり、物をつかんだりできるようになります。大人の持っている熱い食べ物、飲み物にも手を伸ばそうとするので、片手で赤ちゃんを抱きながら熱いものを扱うことは危険です。また、抱いている赤ちゃんが動いたり、動かなくても誤ってカップが手から滑り落ちたりしないとは限りません。赤ちゃんの皮膚は成人に比べて薄く、洋服の上からでも容易に深いやけどになってしまいます。



赤ちゃんを抱きながら、熱い物を食べたり飲んだり運んだりしない。

5 赤ちゃんを抱いたり、おぶったりするときは、周囲にぶつかる危険な場所がないか確認をしていますか。

赤ちゃんをおぶって車に乗り込むとき、頭を入り口にぶつけてしまったり、抱っこして立ち上がろうとして机にぶつけてしまう事故が、赤ちゃんばかり気にかけていて周囲を確認しないために起こっています。



赤ちゃんを抱いたりおぶったりするときは、周囲にぶつかる危険なところがないか、安全を確認してから行動する。

6 タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置いていますか。

腹ばいになり、好きなおもちゃをつかんで遊べるようになった赤ちゃん。手を口を持っていき、なんでも口の中に入れようとします。タバコは2センチ以上飲み込むと、時に命にかかわるといわれています。口に入れると危険なタバコが赤ちゃんの手に届く場所がないか、いつも気をつけておく必要があります。



タバコや灰皿は手の届かないところに置く。
ジュースの缶を灰皿がわりにしない。

7 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。

赤ちゃんを抱っこして車に乗るのは危険です。車が衝突すると腕から飛び出し、顔や頭をシートやダッシュボードにぶつけて、事故の衝撃をまともに受けてしまいます。また、エアバック付きの車の助手席にチャイルドシートを取り付けるのは、衝突によってエアバックが作動すると押しつぶされるので危険です。



車に乗せるときは年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用する。

8 赤ちゃんを抱いているとき、自分の足元に注意していますか。

今まで簡単に通れていた所でも、赤ちゃんを抱いているときは足元が見にくいので、床が滑りやすかったり、カーペットがめくれている、ちょっとした段差にもつまずいてしまいます。赤ちゃんを抱いたまま転倒すると、体で押しつぶしてしまったり、テーブルや家具にぶつってしまうので注意が必要です。



赤ちゃんを抱いているときは、自分の足元に十分注意を払う。

9 赤ちゃんの腕を、お兄ちゃんやお姉ちゃんが強く引っ張ることがありますか。

赤ちゃんの体は完全にできあがっていないので、ちょっと腕を引っ張った程度でも脱臼をしてしまうことがあります。脱臼は癖になりますので、赤ちゃんの腕を引くときは、急に引っ張ったり、強くなり過ぎないように普段から注意が必要です。



赤ちゃんの腕を引くときは強くなり過ぎないようにする。